

# 令和元年秋期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は令和元年秋期の取引動向の概要について紹介します。

## 1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

今期の全体取引量は約7.7万本で、前年同期（約9.0万本）より約1.3万本減少しました。

一般植木は対前年同期比86.9%、株・玉物は81.7%、生垣用樹は92.1%と全ての区分で減少し、全体では85.9%となりました。

全体取引量は、平成10年以降減少傾向が継続しており、平成20年と28年には一時的に増加に転じたものの、減少傾向に歯止めはかからず、今期の取引量は平成10年に比べると18%まで減少しました。

## 2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

### (1) 一般植木（12品目）

一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約1.7万本で、前年同期（約1.9万本）より約0.3万本減少しました。

自然形では、カシ類やキンモクセイは増加しましたが、カエデ類は減少、ツバキも半減しました。

仕立物では、クロマツは増加しましたが、仕立物で大きなウェイトを占めるイヌツゲやイヌマキは減少しました。

### (2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約3.6万本で、前年同期（約4.4万本）より約0.8万本減少しました。

株・玉物の大半を占めるサツキとイヌツゲがともに減少し、ツツジ類も半減して全体量を押し下げました。

### (3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約2.5万本で、前年同期（約2.7万本）より約0.2万本減少しました。

生垣の主要樹種であるサザンカとイヌマキの減少傾向が続いています。

## 3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

平成20年から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）しました。

追加樹種を含めた取引量では、半減したハナミズキとツツジ類が上位10品目から外れ、キンモクセイとヤマボウシが加わりました。また、大量のポット苗が出荷されたオタフクナンテンが激増してサツキ、サザンカを上回り、初めて1位になりました。

\*調査市場\*

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

福地植木生産組合（西尾市斉藤町）

図-1 秋期取引量の推移 (単位:万本)

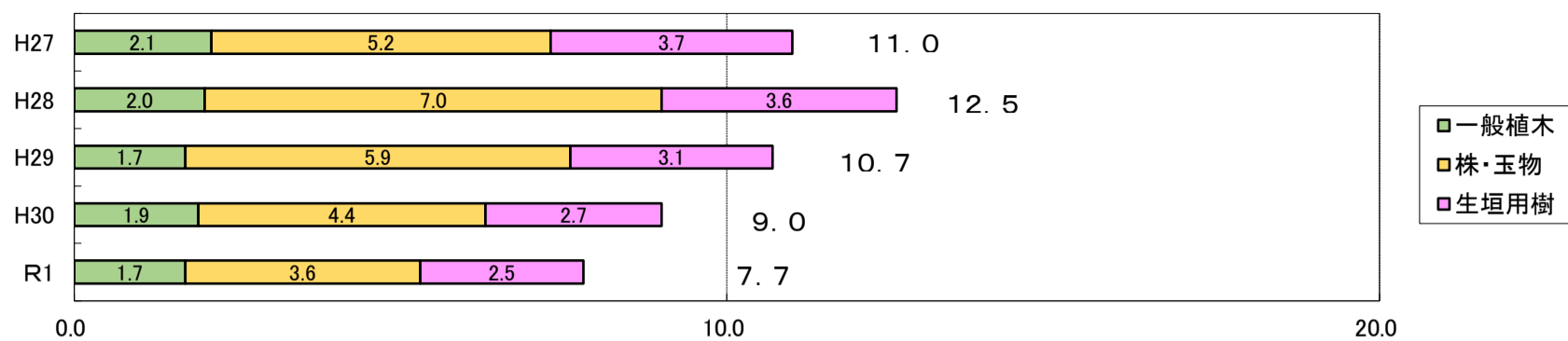


図-2 秋期取引量の区分別構成比 (%)

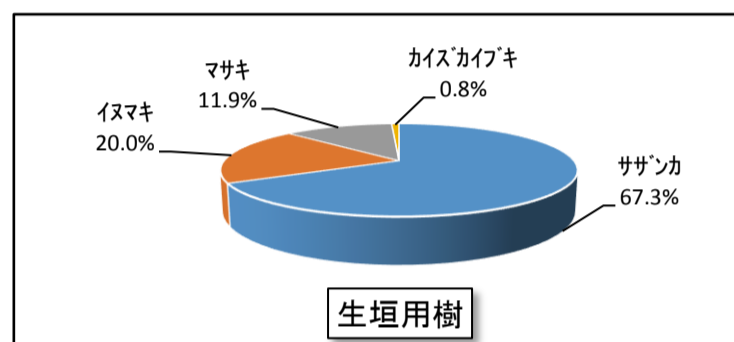
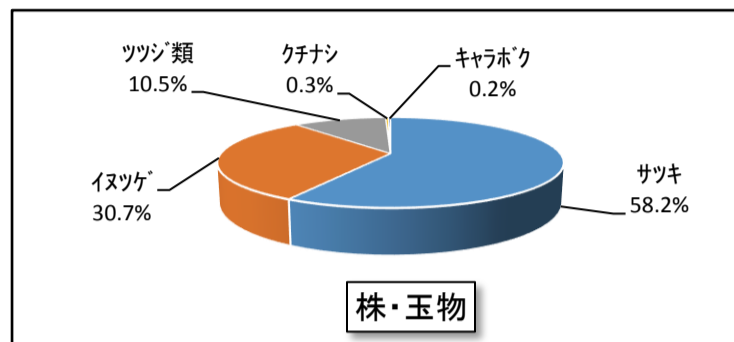
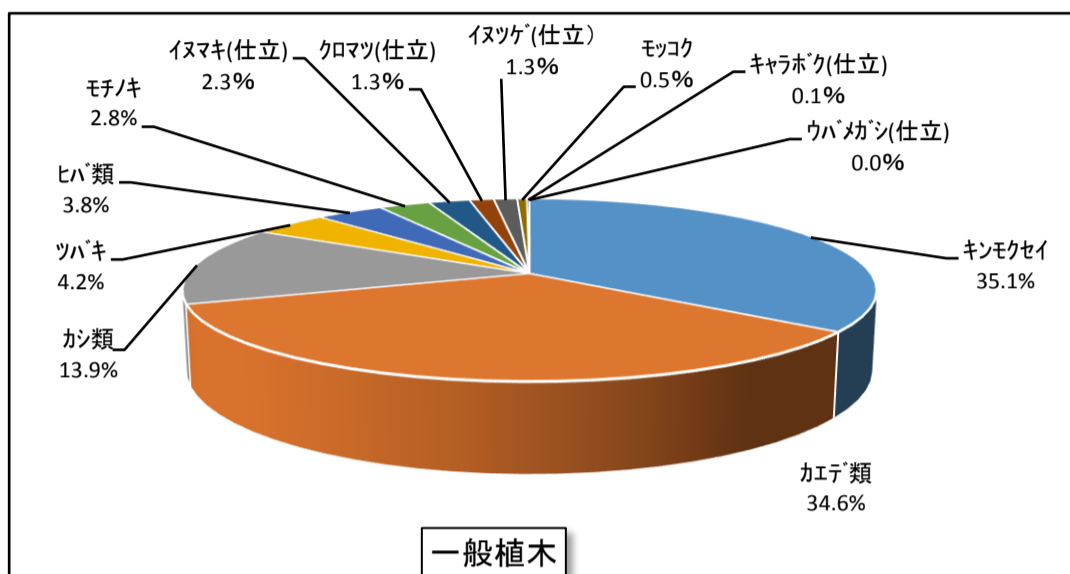


図-3 秋期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比 (%)

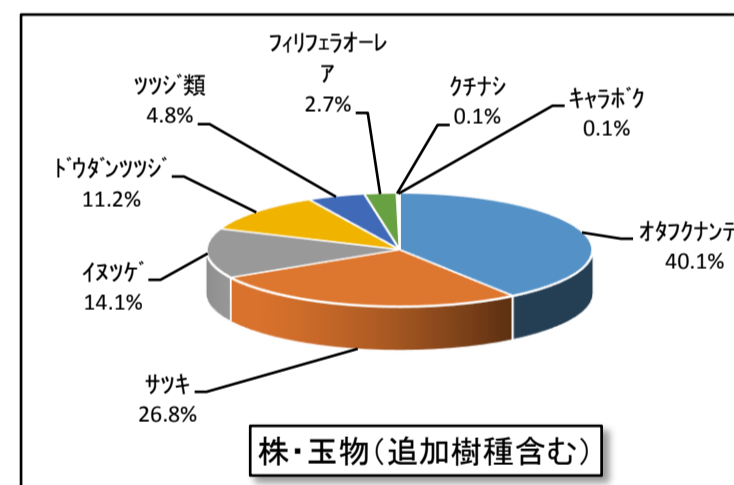
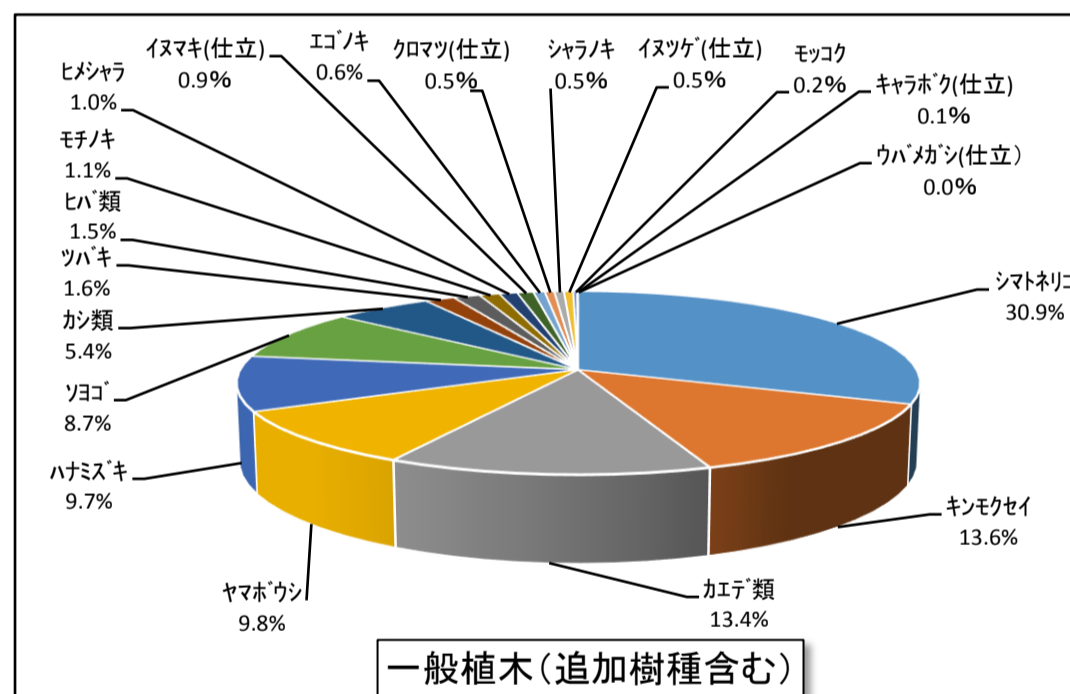


表-1 秋期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	平成29年			平成30年			令和1年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	↘	オタフクナンテン	株	↑
2	サザンカ	生	...	サザンカ	生	...	サツキ	株	...
3	オタフクナンテン	株	↘	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	...
4	ツツジ類	株	...	イヌツゲ	株	↗	シマトネリコ	—	↗
5	シマトネリコ	—	...	シマトネリコ	—	...	イヌツゲ	株	...
6	イヌツゲ	株	↓	ハナミズキ	—	↗	ドウダンツツジ	株	...
7	イヌマキ	生	↘	ドウダンツツジ	株	↑	キンモクセイ	—	...
8	ハナミズキ	—	↘	ツツジ類	株	↓	カエデ類	—	...
9	カエデ類	—	...	カエデ類	—	...	イヌマキ	生	...
10	ドウダンツツジ	株	↘	イヌマキ	生	↘	ヤマボウシ	—	...

前期比    ... : ±20%未満    ↗ : +20%以上40%未満    ↘ : -20%以上40%未満  
           ↑ : +40%以上        ↓ : -40%以上                    — : データなし  
 区分      — : 一般植木        株 : 株・玉物        生 : 生垣用樹